
10月14日（水） 19:00～21:30

【テーマ】 思想・哲学2

【タイトル】

関係人口を哲学する ～“あいだ”を生み出す都市と地方の共生とは～

【概要／狙い】

一日中頭ばかり使い、身体性が喪失していく社会を解剖学者の養老孟司さんは脳化社会と命名しました。脳化が進む都市で、生きる意義や生きるリアリティに飢える都市住民は増加の一途にあります。

一方で、農業など地方で一次産業に携わる人たちは食べるものなど生きるために最低限必要なものを自分でつくっていますが、そこにはわかりやすい「生きる」があります。

そして《あいだ》の喪失。自然を排した都市で暮らす私たちと自然の《あいだ》はありません。関わりがなければ関心を持ってないのです。

だから、環境汚染や地球温暖化は止まらないのだと思います。97%の消費者と3%の生産者の分断は、そのまま都市と地方の分断につながっています。

東京一極集中の裏側で進む地方の農山漁村の衰退。

人間が生きるために必要な食べ物や空気、水を生み出す自然に手をかける人間が減っているというのに、都市住民はまるで他人事のように無関心を決め込んでいるようです。

私たちは暮らしや社会に《あいだ》を取り戻す必要があるのではないのでしょうか。

最近、よく言われるようになったワード「関係人口」について哲学しましょう。

[講師の高橋さんが代表を務める「ポケットマルシェ」のサイト](#)

こちらから事前に購入いただき、当日各地方の産物を取り寄せて、五感で感じながら関係人口を考えていきましょう！

【場所】

オンライン（Zoom）

【講師】

高橋 博之 / 株式会社ポケットマルシェ 代表取締役

【課題図書】

『都市と地方をかきまぜる「食べる通信」の奇跡』

著者：高橋 博之（光文社新書）

【参考写真】

